

2006年発行の『マルチラテラル心理学』（CD-ROM版）に基づいて提供される商品につきましては、2013年の米国精神医学会（APA：American Psychiatric Association）によるDSMのDSM-5への改訂内容が反映されておられません。DSMに関する項目について、以下の通り、訂正・補足いたします。

\*\*\*

米国精神医学会（APA：American Psychiatric Association）の精神疾患の診断分類（DSM）が2013年にDSM-5へ改訂されました。

このDSM-5への改訂では、従来の診断パラダイムの大幅な変更とそれに伴う疾患名の変更（削除・新設等）が行われています。また、日本語訳版においては、一部の疾患名の「～障害」を廃し、「～症」へと変更されています。

（DSM-5の主な改訂内容：一部）

- DSM-IIIやDSM-IVで採用されていた「多軸診断システム」を廃止して、精神疾患・パーソナリティ障害・発達障害の重症度を判定するための「多元的診断（ディメンション診断）」が導入された
  - 「広汎性発達障害」「アスペルガー障害」という概念・名称は削除→「自閉スペクトラム症」の新設
  - 「双極性障害」の独立
  - 「認知症」や「健忘」は「神経認知障害群」にまとめられた
  - 「過食症」の新設
  - 名称変更（一部）
    - （旧名称）→（新名称）
    - ・「知的障害」→「知的能力障害」
    - ・「発達障害」→「神経発達症」
    - ・「コミュニケーション障害」→「コミュニケーション症」
    - ・「注意欠如・多動性障害」→「注意欠如・多動症」
    - ・「学習障害」→「限局性学習症」
    - ・「運動能力障害」→「運動症」
    - ・「不安障害」→「不安症」
    - ・「強迫性障害および関連障害」→「強迫症および関連症」
    - ・「解離性障害」→「解離症」
- など

主な改訂内容は上記の通りですが、あくまでも主な項目の一部ですので、詳しくは、DSM-5の原著ならびに日本語版『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』（日本語版用語監修：日本精神神経学会／監訳：高橋三郎・大野裕／訳：染矢俊幸・神庭重信・尾崎紀夫・三村将・村井俊哉，2014年出版）等でご確認ください。

（出所情報）

原著：American Psychiatric Association

日本語版用語監修：日本精神神経学会

監訳：高橋 三郎／大野 裕

訳：染矢 俊幸／神庭 重信／尾崎 紀夫／三村 将／村井 俊哉

『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』2014年出版